

# 「研修医×医学生」

## 特別対談

2016年3月1日 長崎大学病院医療教育開発センター発行  
部活の先輩後輩の間柄の仲よし2人組をお迎えして、それぞれの部活の思い出や研修医生活への疑問をじっくりと聞きました!!! 第一弾は「弓道部」と「女子バレー部」そして「救急医療系サークルFLAN」です。

意見調整の経験は将来に活かせるはず

診療への関わり方で研修の深みが変わります



YKさん(長大医学部5年)

東京都生まれ。高校時代はバドミントン部、大学から弓道部に入り4年生でキャプテンに就任。西日本医科学生総合体育大会を機に引退。



K先生(長大病院研修医)

佐賀県生まれ。長崎大学出身。大学時代は弓道にのめり込み、引退後の6年生の時に四大学対抗戦で個人優勝した腕前の持ち主。

## 弓道部

お二人とも大学から長崎へ? K先生 僕は唐津市生まれなので、長崎はよく遊びに来ていて、馴染みがありました。YKさん 僕は大学で初めて東京を出ました。長崎は交通機関も娯楽施設もほどよく揃っていて、暮らしやすいです。弓道部、楽しそうですね。

YKさん 弓道は高校時代からやりかっただけです。4年間楽しかったし、いい人間関係を築けた。入ってよかったです。K先生 何部にしても部活には入ることをオススメします。K先生は主務、YKさんはキャプテンを務めていたんですね。K先生 主務はOBの先生や学校側との調整役です。幹部内では、よく「かなり忙しい裏方役」と言われていました(笑)。僕らの時代に道場建て替え計画を立ち上げたのですが、一筋縄ではいかず、現在でも後輩たちが引き継いで資金集めを頑張ってくれています。YKさん 建て替えまでもう少しかかりますね。僕は、幹部会で発言したのがキツカケでキャプテンに推されました。僕の理想の活動は、ガチンコで弓道に打ち込むより、パーベキューや花見などのサイドイベントも楽しめたかったのでその路線で進めました。K先生 その頃、僕はすでに引退してしまいましたが、彼は氣遣いがうまいタイプだと知っていたので、周囲を気にしてイッパイイッパイになっていないかが常に心配でした。YKさん 確かに色々な意見があるから全員が満足いくように事を進めるのは難しいと感じました。ただ、多くの人に囲まれて意見調整することは医師になってからもたぶん度々あることだと思います。学生の部活レベルだと、ある程度失敗も許されるから、学生時代にリーダーの役割に就く機会を与えられたことは良かったと思っています。なるほど。ところでYKさんは研修先は考えています? YKさん 長大病院に決めています。調べれば調べるほど長大病院がいいと思います。指導体制が整っているし、先生方の面倒見がいいと感じます。K先生 確かに指導医の先生方はとても教育熱心だから安心して研修に打ち込めます。YKさん K先生に聞きたいのですが、研修医生活はやはり忙しいですか? K先生 忙しいのは忙しいです。だけど自分自身がどれくらい診療に関わっていくかで研修の深みが変わってくると思う。患者さんの状況を鑑みて、必要な検査や薬の量、治療法について指導医に相談したり、時には議論したり、それをどこまで突き詰めるかが勉強になる部分だと思います。最初はあらゆることを質問していたけれど、ようやく自分で考えられるようになったかな。頑張っていますね。ありがとうございます。

## 女子バレー部

ポリクリでどの診療科も面白く、進路に迷います



Nさん(長大医学部5年)

長崎県生まれ。ゲームではリベロとして活躍。キャプテンとしては的確な指示出しでチームを支えるしっかり者。女子バレー部は結束が固いですね。U先生 そうですね。同期にバレー部出身者が多いので、安心するし、やりやすいです。Nさん 私もポリクリでOGの先輩方がいるととても心強いです。Nさんは昨年までキャプテンを務めていたそうですね。Nさん 先輩方の推薦を受け務めていました。U先生 Nさんはチームのことを第一に考えて行動するというキャプテン素質を備えていました。特に私たちの学年は経験者が少なく、中学時代にバレーの経験があるNさんのアドバイスはとても貴重だったんです。

丁寧に学びたいと思い長大病院を選びました



宮崎県生まれ。長崎大学出身。部活も学業も全力投球するその後ろ姿で後輩たちを引っ張った。

U先生(長大病院研修医)

長崎大学病院 医療教育開発センター 〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号  
TEL:095-819-7847 FAX:095-819-7781 MAIL: [kaihatu@ml.nagasaki-u.ac.jp](mailto:kaihatu@ml.nagasaki-u.ac.jp)  
HP: <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/kaihatu/> ブログ: <http://careerngs.exblog.jp/>



**U先生** 確かに。指導医の先生は本当に熱心で、丁寧に教えて下さいます。そして、2年目の来年は佐世保市立総合病院を選びました。大病院では経験できない当直勤務ができるので実践的に鍛えられると思います。

**Nさん** 私も、たすきがけで佐世保市立総合病院がいいなあと思っています。

**Nさん** すでにしっかり将来を見据えているんですね。

**Nさん** まだまだです。今、ポリクリで回った診療科がどこも楽しく、外科か内科かさえも定まりません。これから専門医制度が変わる中で研修医2年間のローテーションをどう選んだらベストなのか迷っています。

**U先生** 親しい指導医が多い病院で働きたいと思ったからです。都会の方が多くの疾患数を診られるから良いと言いう人もいます。ですが、すべてゼロからスタートになる研修医時代。多くのことを一度に詰め込むより丁寧に学んだ方が自分に合っていると考え、馴染みのある長大病院で学ぼうと決めました。

**Nさん** 私も長大病院を選びます。私もポリクリで、内視鏡や気管支鏡など手技のシーンをみる機会があり、研修医の先生がやっておられるのをよく見ます。一般的な大病院は研修医はあまり手技ができない印象ですが、長大病院は教育熱心な病院だと感じます。

**U先生** 私の場合は、研修医になってから、診療科の印象はがらりと変わりました。外科、内科それぞれの大変さが見えてくると同時に、できることも増えます。もちろん、学生のとときは違って患者さんや看護師さん、コメディカルのみなさんとの関係も密になるし、責任も出てきます。だから、研修医という立場で外科と内科、どちらにも回るのには良い経験だと思います。最終的に選ぶ進路と違う診療科を回ることで医師としての視野も広がると思います。

**貴重なお話、ありがとうございました。**

**FLANの認知度が上がり活動が広がりました！**

**Tさん** (長大病院医学部5年生)



福岡県生まれ。理学部を卒業後、長大医学部に再入学。FLAN内では同学年からはもちろん、OGからも頼りにされている。

**救急医療系サークル**

**FLAN**



**生存率向上のためにBLS指導はとても大事**

**W先生** (長大病院研修医)



福岡県生まれ。長崎大学出身。学生時代はFLANと水泳部を掛け持ちしていた。産婦人科志望だが、海外での活動にも意欲的！

からもイベントのお誘いをいただく様になりました。

FLANは地域貢献にも一役買う存在になりそうですね。

**W先生** そうですね。研修医になってFLANの活動の重要性を再認識しました。突然人が倒れた場合いかに早く救命処置を行うかが生存率や社会復帰率に関わってきます。つまり、一般の方こそBLSを学ぶ必要があるんです。救命救急センターで研修してそれを痛感させられました。

**FLANの存在意義そのものですね。**ところでW先生は研修病院をどうやって決めましたか？

**W先生** 元々、産婦人科希望でした。学生時代に産婦人科のサマースクールに参加した際、長大病院は産科も婦人科も不妊治療も診ることができると知り、迷わず当院での研修を決めました。

**Tさん** 私は今、どの診療科も魅力的で迷っています。また、大病院が市中病院かでも悩みます。

**W先生** 症例数や手技をたくさんできるかどうかが研修病院選びの基準になっていますか？

**Tさん** そうですね。経験できる事が多い方がいいと思います。

**W先生** 私は研修医1年間で過ぎて、症例数や手技に重点を置くことは3年目以降もできる。最初の2年間は数より学ぶことに重きを置くのもいいと思うようになりまし。長大病院は教育熱心な先生が多く、手技を研修医に積極的にさせ、また丁寧

に教えてくださいます。学びやすい環境を選ぶのもいいと思います。

**Tさん** 参考になります！

**Tさん**、ピタリとの研修プログラム、病院を選んでくださいね。

も紹介してもらい、学外の先生

**ズバリ、どんなサークルですか？**

**Tさん** 救急医療について勉強し、学んだことを地域に還元する活動をしているサークルです。

**W先生** 私が入った当時、まだFLANの存在はなく、ワークシヨップ(W.S)に参加する有志の集まりでした。平成22年に正式にサークルとして発足。最近、ようやく認識されつつあります。

**具体的にはどんな活動を？**

**Tさん** 主にBLSの指導です。WSを開催したり、他大学でのWSにインストラクターとして参加したり、中学生向けに指導したりしています。学内ではオープンキャンパスでWSを開催するほか、病院内の職員向け講習で講師補助などもしています。

**WSはどんな内容ですか？**

**W先生** AHAの「ガイドライン」に沿ってシナリオ展開します。自分たちが開催するWSではシナリオから考えるんですよ。例えば「観光客が浜町アーケードを歩いている途中で倒れる」など、参加者が楽しめるように長崎の地域性を出したシナリオを作ります。

**Tさん** 参加者はその状況に応じてシミュレータを使ってBLSを行います。一度のWSで何度も処置を学べるので、体で覚えるんです。鍛えられますね。平成28年度は発足から6年目。サークルとしての成長など感じるのでは？

**Tさん** 序々に学内での認知度が上がってきました。さらに、今年CPR選手権大会という救急医学学会主催の大会に出場させていただきました。3位に入賞することができました。そのことを大学HPでも紹介してもらい、学外の先生